

2022年6月24日

各 位

上場会社名 アールビバン株式会社  
代表者 代表取締役会長兼社長 執行役員 野澤 克巳  
(コード番号 7523)  
問合せ先 取締役執行役員 経営企画室長 樋口 弘司  
(TEL 03-5783-7171)

## 財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備に関するお知らせ

当社は、2022年6月24日付で、金融商品取引法第24条の4の4第1項に基づき、関東財務局に提出いたしました2022年3月期（第38期）の内部統制報告書におきまして、開示すべき重要な不備があり、当社の財務報告に係る内部統制は有効でない旨を記載いたしましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

株主・投資家の皆様をはじめお取引先および関係者の皆様には、ご迷惑とご心配をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

### 記

#### 1. 開示すべき重要な不備の内容

当社は、取引先からの指摘により、売上原価の一部に計上漏れがあることが判明したため、2022年2月10日に社内調査委員会を設置し、調査を実施いたしました。

2022年3月22日、社内調査委員会から調査報告書を受領し、過年度より売上原価の一部に計上漏れの誤謬があったことの報告を受けました。

当社は、調査報告書の内容を検討した結果、計上漏れとなっていた売上原価の修正を行うため、2017年3月期から2021年3月期までの有価証券報告書、及び、2017年3月期第1四半期から2022年3月期第2四半期までの四半期報告書について、決算訂正を行い、2022年3月22日に訂正報告書を提出いたしました。

上記の発生の原因は、本件の特殊性に起因する問題点（取引パターンを誤認した点）が主要因であるが、属人化された組織体制により、内部牽制ができなかった点、権利義務の内容確認に対する意識向上・教育・指導が不足していた点が問題でありました。

当社は、これらの内部統制の不備が財務報告に重要な影響を及ぼしており、全社的な内部統制及び版画仕入プロセスに関する内部統制について開示すべき重要な不備に該当すると判断いたしました。

#### 2. 事業年度末までに是正できなかった理由

上記の内部統制の開示すべき重要な不備は、当該事業年度末直前に発覚したため、下記の再発防止策を取締役会で決議したものの、当事業年度末日までに十分な改善の期間を確保することができなかったことから、事業年度末日時点では下記の再発防止のための改善措置は実行中であり、開示すべき重要な不備について当事業年度末日までに完全には是正を完了できませんでした。

#### 3. 開示すべき不備の是正方針

当社は、財務報告に係る内部統制の重要性を認識しており、これらの開示すべき重要な不備を是正するために、社内調査委員会の調査結果を重く受け止め、以下の再発防止策を講じて、適正な内部統制の整備及び運用を図る方針であります。

現在の改善状況は、2022年3月22日付「社内調査委員会の調査報告書受領及び再発防止策に関するお知らせ」に記載いたしました具体的な＜当社の対応策＞を順次進めており、実効性のある再発防止が確実にできるよう、引き続き、同対応策を講じて、適正な内部統制の整備及び運用を図ってまいります。

- ① 契約の書面化、及び、取引先毎の契約の統一的な管理体制の構築（当社の特殊性に起因する問題点への再発防止策）
- ② 牽制機能を果たし得る組織への転換（業務の属人化の問題点に関する再発防止策）
- ③ 権利義務の内容確認に対する意識向上・教育・指導

- ④ 版画システムの機能向上を図ること
- ⑤ 内部統制を強化するための施策
  - 1) 経理部門による確認の強化
  - 2) 監査部門による監査の強化

4. 財務諸表及び連結財務諸表に与える影響について

上記の開示すべき重要な不備に起因する必要な修正は、全て財務諸表及び連結財務諸表に反映しております。

5. 財務諸表及び連結財務諸表の監査報告における監査意見

無限定適正意見であります。

最後に、株主・投資家の皆様をはじめお取引先及び関係者の皆様には、ご迷惑とご心配をおかけしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。当社は、社内調査委員会が認定した事実と原因分析を真摯に受け止めるとともに、今後、同様の事態が発生しないように、役員・社員一同一丸となって再発防止策の徹底に取り組んでまいります。

以上